

『やめられない・止まらない！』

～通所リハビリテーションでの作業療法で学んだこと～

施設名 サンセリテのがた
発表者 小園 真智子
共同研究者 井上 敏子
下野 律子

当施設は、平成 10 年 11 月に入所 50 名・通所 30 名の施設として開設しました。開設当初は通所の利用者が少なく、内容充実に苦慮し、介護保険制度の開始後も、更に通所リハビリテーション・サービスの充実を図るため、サービス内容の見直し・工夫を行っています。

通所リハビリテーションの目的は、「病状が安定期にあり、医学的管理の下、リハビリテーションを提供する」ことですが、特に、入浴や他の利用者との交流、レクリエーションを楽しみに利用される方も少なくありません。

今回、作業療法として取り入れた「籠作り」が、私達の予想以上に利用者間の交流・生きがい作りに効果を上げ、籠作りに熱中するあまり、利用者間で、出来映えや制作時間の早さを競ったり、肩こり等で治療を受ける方が出る等、正に『やめられない・止まらない！』状態となってしまうました。

このエピソードや反省点を踏まえ、今回経験した『籠作り』から通所リハビリテーション（作業療法）の意義につき、考察を加え報告いたします。